

ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第49回 美智子さまの英訳詩

早いもので、平成から令和になって、もうすぐ一年になります。昨春秋、新美南吉記念館ではびっくりすることがありました。宮内庁から上皇后美智子さまに関する書籍5冊が送られてきたのです。美智子さまが皇后在位中にゆかりのあった施設ということで贈られたものです。

5冊の中には、よく知られているIBBY（国際児童図書評議会）世界大会での講演を収録した『橋をかける』のほか、昨年1月に出版されたばかりの『降りつむー皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読』（毎日新聞出版）も含まれていました。『降りつむー』は、副題の通り、美智子さまが長年取り組まれてこられた詩の英訳と朗読について紹介する本で、ご自身による英訳詩の朗読を映像に収めたDVDが付録としてついています。

そこで新美南吉記念館では、宮内庁から書籍をいただいたことを記念し、美智子さまと英訳詩についての特別展示を昨年11月から1月にかけて開催しました。初日には市長や

岩滑出身の半田高校生などによるテープカットを行い（写真）、会場では宮内庁の許可を得てDVDの映像も流しました。

* * *

美智子さまが詩の英訳に取り組まれるようになったのは、昭和50年春、設立間もない東京英詩朗読会に参加されたことがきっかけです。現在も続いている同会は、当時、白百合女子大学英文学教授だったフィリピン人の修道女マリ・フィロメーナによって始められた20人前後の小さな会で、日本在住の外国人文学者を始め大学で英文学を教える人たちが出席しています。美智子さまは初め外国の詩人の詩を朗読されましたが、3回目からは日本の詩人を取り上げられるようになり、その最初が新美南吉でした。美智子さまは南吉の詩9編（「泉」「垣根」「初夏抒情」「朝は」「葬式」「落葉」「道の埃」「牝牛」「春風」）を英訳され、3回にわたって朗読されています。

皇后に即位されてからは、「ぞうさん」などで知られる

詩人、まど・みちおの詩を数多く英訳されています。平成6年、まどはIBBYが授与する「国際アンデルセン賞」作家賞を東洋人として初めて受賞しますが、この際、審査に用いられたのは美智子さまが英訳された80篇のまどの詩でした。

まどの「国際アンデルセン賞」受賞という快挙の影には、これまで多くの詩を英訳され、ご自身も歌人として詩心のあつた美智子さまの尽力があったのです。そんな美智子さまによる詩の英訳が南吉作品から始まったことは、私たち半田市民にとって嬉しいことです。

新美南吉記念館 遠山光嗣



みなさんの（声）を聞かせてください アンケート

Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。

Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。

Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あて先

〒475-8666

東洋町2-1 企画課

Eメール

kouhou@city.handa.lg.jp



編集後記

家で過ごす時間が多くない、運動不足による体重増加が心配で、家の中で運動するようにしています。体操やストレッチなど、少し体を動かすだけでも、ストレス発散にもなりオススメです。

今回の市報の16ページにも、室内で体を動かすラジオやテレビの番組を紹介しています。楽しく体を動かして、運動不足を解消しましょう。

（浅野）